

ご 挨拶

皆さんこんにちは、久しぶりに懐かしい面々にお会いでき、50 周年事業を計画して本当に良かったと思っています。

この事業は、副会長の川井君が発意し、吉田幹事長はじめ役員の皆さんが周到に準備し今日を迎えることができました。

心配したのは、果たしてどれくらいの人に参加してくれるだろうか、ということでしたが、全国から 115 名もの同期生が参加してくれ盛大に 50 周年を祝うことができ、ありがたいことと感謝します。

さて私ども、昭和 42 年に久留米の幹部候補生学校において同期の絆を結んで以来 50 年、長いお付き合いになりました。この間 48 名の同期が鬼籍に入られました。改めて 48 名の皆さんのご冥福をお祈りします。

残った我々もすでに齢 70 を超え、齢に不足はないのかなと思うところまでは来ました。平均寿命が 80 歳位ですから、平均すればあと 7 年ほどの余生が残されていることになります。それほど長い時間が残されているわけではありません。したがってこれからの一日一日が結構大事になると思いますが、70 を超えますとこれまでの生きざまを変えるなどは到底できません。己の信ずるところに従って生きざるを得ませんが、ただ気を付けて頂きたいのは、健康寿命が 71 歳ですでに我々はこれを超えています。健康にはくれぐれも注意しなければならない。もう一つ、これからの余生は自分の人生を締めくくる意味合いもあります。

お互い健康に注意しながらいい人生を締めくくり得るよう祈りあいましょう。

さて 50 周年ということでイベントを企画しました。

我々の仲間には隠れた才能を持っている人がいますが、隠れた才能であるがゆえに今まで表舞台に出たことはありません。そこで彼らのために舞台を準備しました。この企画は鷺岡君がプロデュースし、細田君のお嬢さんの優花さんが全面的に協力してくれました。優花さんはプロのピアニストで、彼女の演奏を聴けばそれだけで今日来た甲斐があったと思う人が多いと思います。

その後懇親会に入りますが、おそらく参加しておられる大部分の人が今日が最後、今生の別れになる可能性がありますので、心を残さないよう充分に、飲み、語りそして楽しんでお帰りをいただきたいと思います。

小 柳 毫 向